慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	柳沢遊略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2017
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.83 (2017.) ,p.47- 53
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2017年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000083-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017年度定年退職者略歴・著作目録一覧

柳沢　遊（やなぎさわ　あそぶ）

学歴

1970年	東京都立上野高等学校卒業
1971年	東京大学教養学部文科Ⅱ類入学
1973年	東京大学経済学部進学
1976年	東京大学経済学部卒業
1978年	東京大学大学院経済学研究科博士課程進学
1982年	東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

学位　1978年3月　東京大学大学院経済学研究科修士号

職歴

1983年	日本学術振興会奨励研究員（1982年4月–83年3月）
1983年10月	久留米大学商学部専任講師（経済史）
1986年11月	東京農工大学工学部（一般教育部）助教授（経済学担当）
1994年 4月	慶應義塾大学経済学部助教授（日本経済史担当）
1998年 4月	慶應義塾大学経済学部教授
2009年 7月–12月	韓国釜山大学校人間文化研究所客員教授
2014年 4月	慶應義塾大学大学院社会学研究科委員を兼任。現在に至る

非常勤講師歴

1994年	東京経済大学非常勤講師「日本経済史」担当
1994年	東京農工大学工学部（一般教育部）「経済学」担当
2000年	名古屋大学大学院経済学研究科非常勤講師「日本経済史」担当
2001年	明治学院大学経済学部非常勤講師「日本経済史」担当
2005年	千葉大学文学部非常勤講師「情報社会史」担当
2006年	東京国際大学非常勤講師「日本経済史」
2010–11年	早稲田大学大学院文学研究科非常勤講師「日本史特論」担当
2015年 4–9月	津田塾大学国際関係学科「日本経済史」担当

受賞　2000年中小企業研究奨励賞，2000年慶応義塾賞

研究業績

①単著

・『日本人の植民地経験―大連日本人商工業者の歴史―』青木書店，1999年

・『貝原収蔵日記―在華日本人実業家の社会史』柏書房，1992年（日記翻刻と「解題」執筆）

②共編著

・『帝国主義と植民地』（岡部牧夫との共編）東京堂出版，2001年

・『戦時下アジアの日本経済団体』（木村健二との共編）日本経済評論社，2004年

・『満鉄の調査と研究―その「神話」と実像』（松村高夫・江田憲治との共編）青木書店，2008年

・『高度成長の時代』1巻–3巻，（大門正克・大槻奈巳・岡田知弘・佐藤隆・進藤兵・高岡裕之との共編）大月書店，2010–2011年

・『日本帝国圏の東アジア都市経済』（木村健二・浅田進史との共編）慶應義塾大学出版会，2013年

・『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』（今泉裕美子・木村健二との共編）日本経済評論社，2016年

③論文

・「1920年代『満州』における日本人中小商人の動向」（『土地制度史学』92号，土地制度史学会，1981年7月）。1–18頁

・「奉天における「奉天票暴落」問題と「不当課税」問題の展開過程」東京大学経済学研究会『経済学研究』第24号，1981年12月，48–59頁

・「「満州事変」をめぐる社会経済史研究の諸動向」『歴史評論』377号，1981年，50–59頁

・「1920年代前半期の青島居留民商工業」（『産業経済研究』25巻4号，久留米大学産業経済研究会，1985年3月，111–152頁

・「1910年代日本人貿易商人の青島進出」『産業経済研究』27巻1号，久留米大学産業経済研究会，1986年6月，203–239頁

・「貝原収蔵日記抄（一）―在華日本人実業家の社会史―」『東京農工大学一般教育部紀要』25巻，1989年3月，1–17頁

・「貝原収蔵日記抄（二）―在華日本人実業家の社会史―」『東京農工大学一般教育部紀要』26巻，1990年3月，29–39頁

・「商工組合中央金庫の設立と活動」伊牟田敏充編著『戦時体制下の金融構造』日本経済評論社，1991年3月，第3部第3章（379–414頁）

・「西武百貨店の経営近代化」由井常彦編『セゾンの歴史　上』リブロポート，1991年6月，73–226頁

・「大連商業会議所常議員の構成と活動―1910～20年代大連財界変遷史―」大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社，1992年6月，301–358頁

・「近代日本における『国際化』の検証―日露戦争後日本人の『満州』進出と居留民社会論―」尾関周二他編『国際化時代に生きる日本人』青木書店，1992年，121–152頁

・「中小企業の政策」通産省・通商産業政策史編纂委員会『通商産業政策史　第1期　戦後復興期』通商産業調査会，1992年，（第4章第4節「中小企業の政策」613–709頁を分担執筆）

・「『満州』商工移民の具体像―日露戦後の満州渡航事情―」『歴史評論』第513号，歴史科学協議会，1993年1月，42–53頁

・「第二部　貝原収蔵日記解題」柳沢遊編著『貝原収蔵日記―在華日本人実業家（じつぎょうか）の社会史―』柏書房，1993年，576–623頁

・「榊谷仙次郎―「満州」土木請負業者の世代交代」竹内常善ほか編著『近代日本の企業家の諸系譜』大

阪大学出版会，1996年，238–276頁
・「戦時労働力の給源と動員―農民家族と都市商工業者を対象に―」（大門正克と共著）『土地制度史学』151号，1996年，38–45頁を分担執筆，28–30頁，46–47頁を共同執筆。
・「満洲における商業会議所連合会の活動」波形昭一編『近代アジアの日本人経済団体』同文館出版，1997年，91–113頁
・「在「満州」日本人商工業者の衰退過程：1921年大連商業会議所会員分析」『三田学会雑誌』92(1)，慶應義塾経済学会，1999年4月，47–80頁
・「青島居留民団における低利資金問題の展開」日本植民地研究会『日本植民地研究』13号，2001年6月，1–18頁
・「帝国主義　帝国主義と在外居留民―「帝国意識」とその社会的基盤（特集　帝国―グローバリゼーションへの新視角）」『現代思想』29(8), 2001年7月，152–162頁
・「戦後復興期の中小商工業者」原朗編『復興期の日本経済』東京大学出版会，2002年，313–345頁
・「大連埠頭」松村高夫ほか編『満鉄労働史の研究』日本経済評論社，2002年，250–284頁
・「日本帝国主義の「満洲」支配史研究」田中明編著『近代日中関係史再考』日本経済評論社，2002年，19–41頁
・「侵略の社会的経済的基盤」石井寛治ほか編『日本経済史　3両大戦間期』東京大学出版会，2002年，367–378頁
・「現代日本のネオ・ナショナリズム；受容基盤との関連を中心に」安田浩ほか『ポリティーク　特集新自由主義国家とネオ・ナショナリズム』4号，旬報社，2002年，238–247頁
・「川口市―新興工業都市の事例研究Ⅱ―」（大石嘉一郎・金澤史男編著『近代日本都市史研究―地方都市からの再編成―』，日本経済評論社，2003年2月），577–619頁
・「日本経済と戦争―満州事変期を中心として―」大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどう見るか〈戦争と現代〉③』，大月書店，2004年2月，199–246頁
・「大連商工会議所から関東州経済会へ」『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社，2004年，135–174頁
・「序章」（木村健二と共著）『戦時下アジアの日本経済団体』1–9頁
・「1940年代初頭大連日本人個人経営者の経歴について」『經濟學研究』70巻4・5号，九州大学経済学会，2004年4月，1–23頁
・「戦時体制下の流通統制―1937～1945」（石井寛治編『近代日本流通史』，東京堂出版，2005年9月），90–119頁
・「講演　日本帝国主義史研究の現段階―1930年代帝国主義の中国侵略と経済団体―」『地域と経済』，札幌大学経済学部附属地域経済研究所，2006年3月，65–84頁
・「東京における中小商業企業整備」原朗・山崎志郎編著『戦時日本の経済再編成』，日本経済評論社，2006年3月，265–292頁
・「1930年代大連の工業化」『三田学会雑誌』101巻1号，2008年4月，149–179頁
・「変容する市場と特産物―大豆三品の流通・生産調査―」松村・柳沢・江田編『満鉄の調査と研究―その「神話」と実像』青木書店，2008年，第3章，186–226頁
・「序章　満鉄の調査研究活動の問題性と本書の立場」（松村高夫・江田憲治と共著）同上書，1–24頁
・「満鉄傘下企業の設立―1920–30年代を中心に」（岡部牧夫編『南満州鉄道会社の研究』日本経済評論社，2008年）165–205頁

・「日本人の居留民社会」(『東アジア近現代通史　3世界戦争と改造』岩波書店，2010年，275–296頁
・「首都圏の経済変貌―商工業の発展と中枢管理機能集積地の出現」大門正克ほか編『高度成長の時代1復興と離陸』大月書店，2010年，107–156頁
・「「鮮満一体化」構想と寺内正毅・山県伊三郎」国立民俗博物館編『「韓国併合」100年を問う』岩波書店，2011年，54–65頁
・「衣料品問屋の盛衰―東京の紳士服製造卸売業者を中心に―」原朗編著『高度成長展開期の日本経済』日本経済評論社，2012年，第7章，191–231頁
・「工業都市大連の形成過程」柳沢・木村・浅田編『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應大学出版会，2013年，第5章，155–194頁
・「序章　本書の目的と東アジア都市史研究の動向」柳沢・木村・浅田編『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版会，2013年，1–16頁
・「高度成長期の衣服産業の展開―東京立地ワイシャツ製造卸業者の群像―」『同時代史研究』第6号，2013年，3–21頁
・「学問的論争と歴史認識―小林英夫・福井紳一氏の「批判」によせて」(江田憲治・伊藤一彦との共著)(京都大学大学院人間・環境学研究科『社会システム研究』第17号，2014年3月）179–203頁
・「都知事選挙からみえる政治意識の流動性」基礎経済科学研究会『経済科学通信』136号，2015年1月，32–35頁
・「一九四〇年代後半期大連営業者の職業「復帰」」今泉・柳沢・木村編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』日本経済評論社，2016年，295–323頁

④報告書

・「台東区商工業の歴史的展開過程」(大石嘉一郎・大岡聡との共著）東京自治問題研究所『変貌する台東―再生の進路を探る―』1988年8月，「小売商業と商店街」62–77頁を分担執筆。
・「日露戦後日本人商人の対「満州」進出―大連商業会議所常議員の進出経緯―」谷喬ほか編『工業技術の発達と社会の変貌―近代日本における技術移転と国際比較―』平成元年教育研究特別経費による研究報告書，東京農工大学，1990年，68–91頁
・「東京への企業・人口集中と地域変動―高度成長期―」千野陽一・高橋明善他『国際化時代の大都市問題』東京農工大学，1991年3月，1–43頁
・「戦前期日本の勢力圏への商工移民―『満州』・中国都市への移民を中心に―」『ユーラシアと日本；境界の形成と認識―報告書―』人間文化研究機構連携研究，国立歴史民俗博物館，2008年3月，52–57頁
・「終章　さいたま市の現状と課題」財団法人政治経済研究所『政令指定都市さいたま市の現状と展望』2006年12月，148–155頁
・「大学教員はどのように余裕を失っていったか―大学生の「学力低下」の社会的背景―」高騰教育研究所編『私立大学の未来を拓く』2013年3月，111–125頁

⑤書評

・「日本史研究会大会報告批判「籠谷報告によせて」」日本史研究会『日本史研究』第345号，1991年，58–62頁
・「1983年度日本史研究会大会報告批判梅本哲世報告『日本資本主義と電力』についての若干の感想」『日本史研究』第261号，1984年5月，51–54頁
・「史料・文献紹介・藤田幸一郎『狂気の近代』花伝社，1988年」『歴史学研究』584号，1988年9月，63–64頁

・「史料・文献紹介・村川庸子『アメリカの風が吹いた村―打瀬船物語―』」『歴史学研究』582号，1988年7月，63頁
・「書評・波形昭一著『日本植民地金融政策史の研究』早稲田大学出版部，」『社会経済史学』第53巻第6号，1988年2月，98–102頁
・「史料文献紹介・日本植民地研究会編『日本植民地研究』1・2号」『歴史学研究』608号，1990年7月，63頁
・「本棚・『豊かさを哲学する』を読む」東京自治問題研究所『東京』86号，1990年2月，26–27頁
・「ブックりぶろ；カレル・ヴァン・ウオルフレン『日本／権力構造の謎』上・下」，早川書房，1991年，東京唯物論研究会『唯物論』65号，1991年，102–106頁
・「中村政則『歴史のこわさと面白さ』」『歴史学研究』645号，1993年5月，62頁
・「本棚・成田龍一編『都市と民衆』吉川弘文館，1993年」『東京』136号，1994年4月，20–21頁
・「1996年度歴史学研究会大会報告批判；小松久男・小熊英二報告批判」『歴史学研究』第692号，1996年12月
・「書評・東建記念誌編集委員会編『東京をつくった話』日本経済評論社，1998年」東京自治問題研究所編『東京研究』東信堂，1999年5月，249–253頁
・「本棚・歴史学研究会編『戦後歴史学再考―「国民史」を超えて―』」『東京』205号，2000年7・8月号，28–29頁
・「書評・曽田三郎編『近代中国と日本―提携と敵対の半世紀』」『近きに在りて』40号，汲古書院，2001年12月，94～99頁
・「書評・『東洋拓殖会社―日本帝国主義とアジア太平洋』（黒瀬郁二著，日本経済評論社，2003年3月刊）」（『地域総合研究』31(2)，鹿児島国際大学附置地域総合研究所，2004年3月），130–133頁
・「本棚・渡辺治編『高度成長と企業社会』―日本の時代史27」『東京』252号，2004年11月，34–35頁
・「本棚・小田実『世直しの論理と倫理　上・下』」『東京』286号，2007年12月，42–44頁
・「書評・大門正克・安田常雄・天野正子編『戦後経験を生きる』吉川弘文館，2003年」『歴史と経済』200号，2008年7月，70–72頁
・「書評・坂本悠一・木村健二著『近代植民地都市　釜山』（桜井書店，2007年）」『東アジア近代史』12号，2009年，231–233頁
・「本棚・金子勝・アンドリュー・デヴィッド著『世界金融危機』」『東京』298号，2009年1月，40–43頁
・「本棚・青砥恭『ドキュメント高校中退―いま，貧困がうまれる場所―』」『東京』309号，2010年1月，35–37頁
・「本棚・渡辺治・進藤兵編『東京をどうするか―都市と環境の都市構想』」『東京』324号，2011年5月，39–42頁
・「書評・蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版，2008年」『日本植民地研究』第23号，アテネ社，2011年，72–76頁
・「本棚・内橋克人編『大震災のなかで―私たちは何をすべきか―』『東京』335号，2012年6月，34–37頁
・「2012年度歴史学研究会大会報告批判〈現代史部会〉―「消費者」の時代を問い直す」（矢野久と共著）『歴史学研究』900号，2012年12月，47–49頁
・「本棚・新雅史『商店街はなぜ滅びるのか―社会・政治・経済史から探る再生の道―』」『東京』342号，2013年3月，37–39頁
・「書評・浅田進史『ドイツ統治下の青島―経済的自由主義と植民地社会秩序―』東京大学出版会，

2011年」(『歴史と経済』第221号，2013年10月), 45–47頁
・「書評・小林元裕『近代中国の日本居留民と阿片』吉川弘文館，2012年」(『日本植民地研究』第25号，2013年）108–110頁
・「本棚・原武史著『団地の空間政治学』『東京』356号，2014年7月，36–39頁
・「本棚・原朗著『日清・日露戦争をどうみるか』」『東京』360号，2014年12月，42–47頁
・「書評・歴史学研究会編『歴史学のアクチュアリティ』東京大学出版会，2013年」『歴史と経済』225号，2014年10月，38–40頁
・「本棚・『証言記録　市民たちの戦争　1　銃後の動員』」『東京』367号，2015年8月，38–43頁
・「本棚・小野塚知二編『第1次世界大戦開戦原因の再検討；国際分業と民衆心理』」『東京』362号，2015年3月，31–36頁
・「書評・石井寛治著『資本主義日本の経済構造』」『歴史学研究』947号，2016年8月号，57–60頁
⑥その他
・「『日本資本主義発達史講座』刊行50年記念シンポジウム参加記」『歴史学研究』第512号，1983年1月，35–39頁
・「雑草型研究者の“低空飛行”―院生時代を語る」『全院協ニュース』1984年5月16日号，3頁
・「一般教育・経済学の講義内容試論―学生の「理解感」を中心に―」(経済学教育学会『経済学教育』第11号，1992年，25–32頁
・「東京農工大学における経済学講義の改善方向」一般教育学会『一般教育学会誌』第13巻第2号，1991年11月，85–89頁
・「『戦時経済源流』論をめぐって」東京自治問題研究所『東京』150号，1995年7・8月，16–17頁
・「戦時日本社会論の諸相」『東京』151号，1995年9月，16–17頁
・「『満洲工場統計速報』解題」『満洲工場統計速報』本の友社，1996年，2–7頁
・「私のゼミナール運営と学園祭」東京大学経友会『慶友』137号，1997年2月，125–129頁
・「戦前『満洲』の経済と社会―慶應大学のプロジェクト科目」近現代東北アジア研究会『NEWS LETTER』第9号，1997年12月，73–76頁
・「近代日本の戦争と居留民」慶應義塾大学通信教育部『三色旗』589号，1997年4月，15–20頁
・「第2次大戦期の経済・社会をどう見るか；新しい研究潮流をめぐって」『唯物論研究年誌』3号，唯物論研究協会，1998年9月，207–212頁
・「解説・帝国主義と植民地」(岡部牧夫共著)『帝国主義と植民地　展望日本歴史20』東京堂出版，2001年，1–12頁
・「コメント3　移民と植民」『帝国主義と植民地　展望日本歴史　20』東京堂出版，2001年，130–131頁
・「コメント4　投資と収奪」『帝国主義と植民地　展望日本歴史　20』，180–181頁
・「コメント6　断絶と連続」『帝国主義と植民地　展望日本歴史　20』，366–367頁
・「近代都市構造史研究会の活動と成果　その1―『近代日本都市史研究』刊行に寄せて―」『評論』日本経済評論社，135号，2003年2月，6–9頁
・「文献紹介・大石嘉一郎『自由民権と大隈・松方財政』」『日本史文献事典』弘文堂，2003年，232頁
・「文献紹介・大石嘉一郎『近代日本の地方自治』」『日本史文献事典』弘文堂，2003年，232－233頁
・「文献紹介・大石嘉一郎『日本資本主義史論』」『日本史文献事典』弘文堂，2003年，233頁
・「文献紹介・柳沢遊『日本人の植民地経験』」『日本史文献事典』弘文堂，2003年，1274頁
・「特集に当たって―「帝国」と植民地―「大日本帝国」崩壊六十年―」(森武麿との共著)『年報　日本

現代史』第10号，2005年，1–5頁
・「日本帝国主義による中国侵略と経済団体」慶應義塾大学『三田東北亜研究』第2巻，金明洙韓国語訳，2006年，106–111頁
・「在『満』日本人」植民地文化学会・東北倫陥一四年史総編室編『「満州国とは何だったのか』小学館，2008年，第8章，219–226頁
・「シンポジウム参加記―満州企業史研究の成果と課題―鈴木邦夫編『満州企業史研究』をめぐって―」『日本植民地研究』20号，2008年，49–52頁
・「大石嘉一郎先生の学問―近代日本地方自治史研究を中心に―」『東京』278号，20–21頁
・「満鉄と大豆市場（国際ワークショップ　近代中国と満鉄）」『環東アジア研究センター年報』第4号，2009年3月，56－59頁
・「大学教育に今，何が求められているのか；石井潔氏インタビュー」『東京』324号，2011年5月，39–42頁
・「小川原宏幸氏インタビュー；「韓国併合」100年とわたしたちの歴史認識」（山本公徳との共著）『東京』316号，2010年8・9月，2–25頁
・「岡部牧夫氏の日本植民地研究」『日本植民地研究』23号，2011年，80–84頁
・「対談　高度成長への視座―シリーズ『高度成長の時代』から現代へ―」（大門正克との共著）『経済』195号，2011年12月号，107–119頁
・「はしがき」大門正克・柳沢遊他編『成長と冷戦への問い　高度成長の時代3』大月書店，2011年，11–14頁
・「解説」（木村健二との共著）『全国商工会議所関係資料　第Ⅱ期』雄松堂書店，2011年，9–18頁
・「近代日本における『福祉国家』の未成立―その理念と現実―」（慶応義塾大学通信教育部『三色旗』第777号，2012年12月）24–29頁
・「安田浩さんの歴史学方法論」追悼文集刊行委員会編『追悼安田浩　運動と学問』株式会社きかんし，2012年12月，372–374頁
・「現代日本における「知」の在り方とは何か；大学教育の現状と課題から考える［特集］　上井喜彦埼玉大学学長インタビュー」『東京』342号，2–24頁
・「特集　第一次大戦勃発100年から現代を問う；浅田進史氏インタビュー」『東京』357号，2014年8月，2–23頁
・「序　特集・1940年代の地域社会と人の移動―日本帝国膨張・収縮期の地域社会―」『三田学会雑誌』107巻3号，2014年10月，1–10頁
・「日本国憲法の現在―戦後日本における憲法と『自衛権』論議の変遷」『総合人間学』第10号，2016年，125–133頁
・「序特集・韓国経済発展の歴史的条件―1960年代日本との比較を中心に―」『三田学会雑誌』109巻2号，2016年7月，1–3頁
・「歴史と記憶とオーラル・ヒストリー」（コメンテーター）慶應義塾福沢研究センター『近代日本研究』33巻，2016年，312–315頁，325頁